

史跡小田原城跡御用米曲輪の発掘調査について

1 はじめに

史跡小田原城跡の御用米曲輪（ごようまいぐるわ）では、平成 22 年度より史跡整備に伴う発掘調査を行っています。

これまでの発掘調査でも、様々な調査成果が挙がっており、昨年度には江戸時代の蔵跡のほかに石垣を伴う障子堀（しょうじぼり）が確認され、戦国時代の小田原城でも石垣が使われていたことが確認されたとして話題となりました。

また、昨年 8 月には江戸時代の瓦積塀（かわらづみべい）が立ったままの状態で見出され、江戸時代の小田原城最後の建造物の発見、あるいは戦国時代の大型の礎石建物跡が確認され、戦国大名小田原北条氏の主殿（しゅでん）の可能性が考えられるなど、大きな発見が相次いでおりました。

その後も、御用米曲輪での発掘調査を継続しておりますが、さらに大きな発見がありましたのでご報告します。

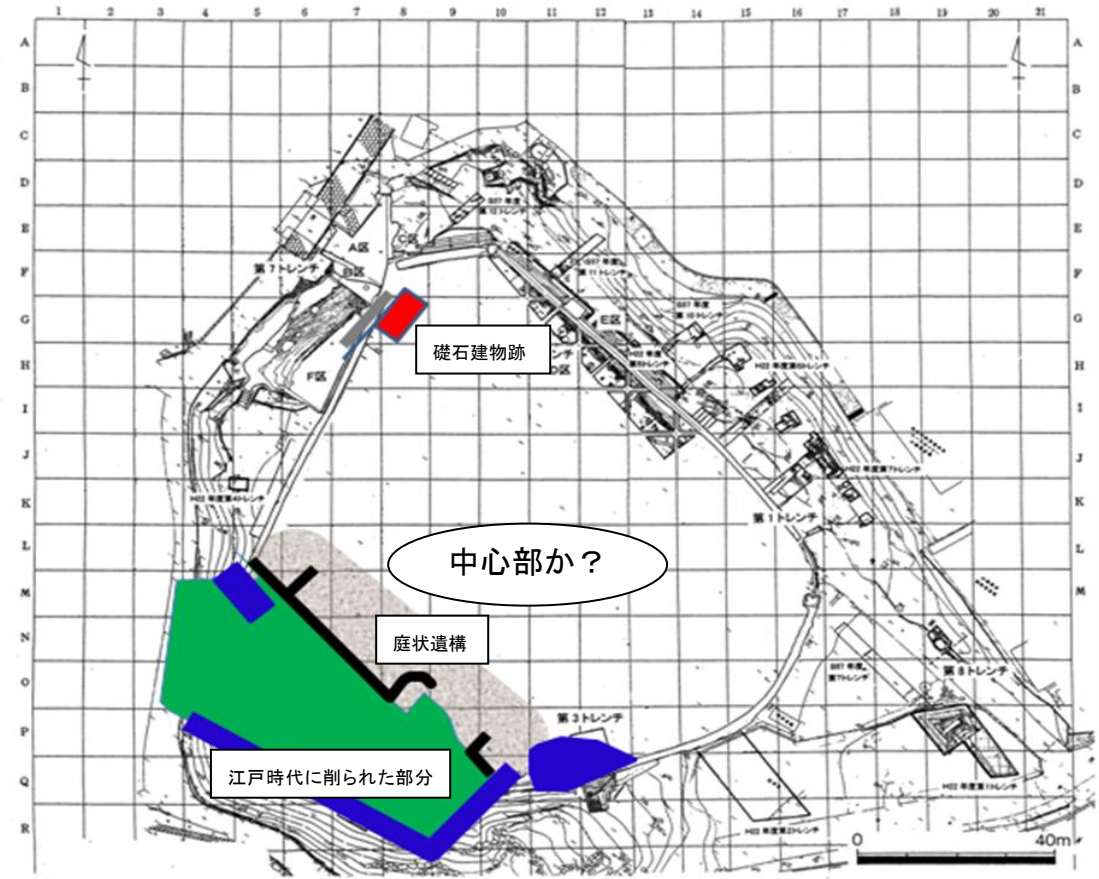


図 1 戦国時代の御用米曲輪、想定概念図

2 確認された「礎石建物跡」(そせきたてもものあと)について

御用米曲輪の北側で、礎石と考えられる石が並んで確認されました。このことについては8月にもご報告し、この礎石建物跡は戦国大名小田原北条氏の主殿(しゅでん)の存在を想定し得る調査成果であると発表をいたしました。

その後、礎石建物跡周辺の調査を進めた結果、この礎石建物は、桁行(けたゆき)6間以上×梁間(はりま)3間(1間≒6尺2寸5分=1.89m)の建物であることが分かりました(写真1)。また、礎石建物は少なくとも同じ場所で3回の建て直しが行われていると考えられ、建物の西側には幅1間の玉石を敷き詰めた道路が伴う時期もあったことがわかりました。このことから、この場所が利用頻度の高い重要な空間であったことがわかります。

建物の規模が梁間3間と細長いため、会所(かいしょ)や主殿(寝殿)といった中心的な建物に付随する何らかの施設と考えることが妥当と考えられます。しかし、この建物に隣接して「かわらけ(儀式や宴会などに用いる素焼きの土器)」が1,000点以上出土していることから、この建物が小田原城の中でも重要な建物の1つであったことは間違いありません。

3 戦国時代の曲輪の形と「庭状遺構」(にわじょういこう)の発見について

御用米曲輪の南側(本丸・天守閣側)では、江戸時代とは全く異なる戦国時代の曲輪の範囲が明確になりました。これまで、御用米曲輪は戦国時代の面影を色濃く残す曲輪であると考えられていましたが、戦国時代の御用米曲輪の形態は江戸時代のものとは全く異なることがわかりました。

さらに、その曲輪の端には石組みの水路が造られており、斜面からの排水に用いられていたと考えられます。この水路の周辺には所々に庭石と思われる石材が配置されており、手前には玉石や砂利が敷かれていました(写真2)。

このことから、これらの遺構は斜面を背景として設けられた“庭”の裏手であろうと考えられます。同様の遺構は広範囲で確認されており、戦国時代の御用米曲輪南側には広大な庭があった可能性があります。また、庭に使われている石材は、西側では円礫(安山岩の河原石)、東側ではブロック状の切石(凝灰岩の切石)、中央ではモザイク模様のような様々な石[白い円礫・黒い切石(風祭石)・黄色い砂岩(鎌倉石)]が用いられており、それぞれの部分が個性的な庭の景観を形成していた可能性が考えられます。

この庭状遺構の中心は、未調査部分にあるものと考えられますが、検出された石組み水路の向き(軸線)が、礎石建物跡の向きとほぼ同一であることから、この庭状遺構と礎石建物は、同じ時期に存在した一連の遺跡であると考えられます。

4 今回の発見から想定し得ること

礎石建物跡の礎石とは、大型の建物を支えるための基礎として用いられるものであり、小田原においては初めて検出されたものです。さらに、それに伴う庭が存在したことは重要な発見と言えます。このような遺構の例として、大友氏遺跡の大友氏館跡（大分県大分市）・大内氏遺跡の大内氏館跡（山口県山口市）・阿波細川氏の勝瑞城館跡（徳島県板野郡藍住町）^{しょうずいじょうかんあと}・越前朝倉氏の一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）など、各地で確認されている大名レベルの居館遺構に相当するものです。

また、礎石建物や庭の存在は、文献史料などで垣間見えていた文化都市としての小田原の姿（会所での儀式、主殿（寝殿）での宴席・歌会など）を遺構として明らかにするものと言えます。

これまで小田原城は、八幡山古郭（現在の小田原高等学校周辺）から小田原北条氏五代約100年の間に同心円状に拡大されてきた城郭と評価されてきました。しかし、今回の調査成果から、近年研究者により指摘され始めていたように、小田原北条氏の当主は山手ではなく低地部に屋敷を構えていた可能性が高まったと言えます。

5 2月16日（土）に見学会を開催します

これらの貴重な発見を実際に御覧いただくため、2月16日（土）に遺跡見学会を開催いたします。時間は午前10時から午後3時までとし、その時間の中でご自由に御覧いただけるようにいたします。また、午前10時からと午後1時からの2回（約1時間）、調査を担当する職員がそれぞれの遺構について解説をする予定です。

長い時間土中に埋まっていた遺跡は、露出している時間が長くなると崩れてしまいます。今回の調査成果も随時遺構保護のために埋め戻して参ります。遺跡見学会は、このような貴重な成果を御覧いただける機会ですので、ぜひ多くの皆さんに御参加頂きたいと思っております。



写真1 礎石建物跡（南から）



写真2 庭状遺構（中央部、北から）